

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第6回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会

委員長 口田邦男

調査事項 教育行政の現状について

①新学習指導要領について
学習指導要領の改訂により本年4月から新しい教育内容がスタートしているため、教育課から説明を受けた。
新学習指導要領は、生きる力を育成すること、育成のバランスを重視すること、豊かな心や健やかな体を育成することを基本方針とし、小学校が平成23年度、中学校が平成24年度の完全実施に向け、本年度から移行期間に入っており、教育委員会としては、完全実施に向けての各校の取り組みについて、子供たちが安心・信頼して学

べるよう最大の注意を払い、全教職員が一丸となつて教育課程の編成を行えるように指導・支援を行うとのことである。

◆御影小学校
児童数113名、教職員

数18名で、児童6・3人に教職員が一人という恵まれた環境にある。「あいさつ、あとかたづけ、ありがとう」の3つの「あ」運動を行い、しみず「教育の四季」を



学校施設の現地調査(清水中学校)

具現化、世界で活躍できる日本人としての土台形成という大きな夢を持って進めている。

◆清水中学校
生徒数206名、教職員数は相談員・非常勤講師を含めると24名。
本年度の重点目標の1つ目として「地域と結び合う学校」を掲げ、しみず「教育の四季」と関連させた取り組みで、基本的な生活習慣の定着を目指している。また、2つ目は「豊かな学力と心身をはぐくむ学校」を掲げ、「家庭学習ノート」の定着、「いじめのない楽しい学校づくり」、「言語環境の充実」等を進めている。

産業厚生常任委員会

委員長 奥秋康子

調査事項 保育事業の現状について

子育てに関する多様なニーズに対応した保育サービスが求められている中、町内の実情に応じた保育及び教育の取り組みの現況について、保健福祉課の説明を聞き、保育現場を視察した。
本町の保育事業の主なものは、常設保育所・

へき地保育所・幼稚園・学童保育所・きずな園の運営、子育て支援、乳幼児保育等で、各施設の児童数は、少子化に伴い定員に満たない状況にある。
今後は、行財政健全化実行プラン(第二次緊急3か年計画)の事務事業見直しにより、



保育現場の視察(幼稚園)

保育所タクシーを廃止した場合の新たな送迎補助制度の新設や3年毎の保育料の見直しを早急に検討し、更には将来の子どもの数や保育形態を考慮した保育所の統合や新たな取り組みとして「認定子ども園」の計画が必要になっている。

保育現場の視察を行った第一保育所は、児童数が未満児8名を含む87名で、特徴ある保育として、はだし保育を実施していた。
また、幼稚園は、3歳児から小学校就学前の